

(1) 地理的分野 ……第1学年, 第2学年

1部 私たちの世界そして日本

(ア) 内容

- ・ 地球表面のようすを地球儀や世界地図を活用してとらえ, 地球上の位置の表し方や球面上の位置関係, 世界の地域構成をとらえる技能や知識を身につける。
- ・ 日本地図を活用して, 47都道府県の位置と名称や日本の地域区分をとらえられるようにする。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲 ・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識 ・理解
世界の姿をとらえよう 1年4月 5月 (20)	・世界の地域構成の基本的な枠組みについて関心を高め, 意欲的に追求することができる。	・四季の変化や時差が生じる理由を公転と自転を繰り返す球体である地球の構造と関連づけて考察することができる。	・地球儀や地図の基礎的な活用のしかたを身につけている	・世界の地域構成に関する基礎的な知識を身につけている
日本の姿をとらえよう 1年6月 (10)	・日本の地域構成の基本的な枠組みについて関心を高め, 意欲的に追求することができる。	・日本の地域構成を, 日本の位置と領域, 都道府県の構成と地域区分をもとに, 多面的・多角的に考察することができる。	・緯度・経度を用いて, 地球上における日本の位置を表現することができる。	・日本の地域構成に関する基礎的な知識を身につけている。

2部 さまざまな地域の調査

(ア) 内容

- ・ 観察や調査などの活動を通して, 身近な地域に対する理解と関心を深めるとともに, 市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身につける。
- ・ 都道府県規模の地域をいくつかの地域に区分し, それぞれの地域的特色を明らかにしながら, 全体的特色を明らかにしていく方法を獲得する。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲 ・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識 ・理解
身近な地域を調べよう 1年7月 (7)	・自分たちが生活している地域の特徴と, 市町村規模の地域をとらえる視点や方法を身につけることについて関心を高め, 意欲的に追求することができる。	・地域の特徴を象徴する地理的事象を見出し, それを多面的・多角的に考察することができる。	・適切な縮尺の地形図を読みとることができる。	
都道府県を調べよう 1年2月 3月 (19) 2年10月 11月 (20)	・自分たちが調査しようとする都道府県の地域の特徴と, それをとらえる視点や方法に関心を高め, 意欲的に追求することができる。	・自分たちが調査しようとする都道府県の地域の特徴を象徴する地理的事象を見出し, それを多面的・多角的に考察することができる。	・収集した資料から, 適切な地理的情報を読み取ることができる。	・自分たちが調査しようとする都道府県の地域の特徴を理解し, 地域的特色をとらえる視点や方法を理解することができる。
世界の国々を調べよう 2年12月 1月 (20)	・自分たちが調査しようとする国家の地域の特徴と, それをとらえる視点や方法に関心を高め, 意欲的に追求することができる。	・自分たちが調査しようとする国家の地域の特徴を象徴する地理的事象を見出し, それを多面的・多角的に考察することができる。	・収集した資料から, 適切な地理的情報を読み取ることができる。	・自分たちが調査しようとする国家の地域の特徴を理解し, 地域的特色をとらえる視点や方法を理解することができる。

3部 世界と比べてみた日本

(ア) 内容

- ・ わが国の地域的特色を，世界的視野と日本全体の視野にたって，「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の五つの面から追求し，理解する。
- ・ これまでの学習成果をふまえ，それらに関連づけて世界的視野から見た日本の地域的特色や諸地域的特色を考察する。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲 ・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識 ・理解
さまざまな面からとらえた日本 さまざまな特色を関連づけてみた日本 2年2月 3月 (18)	・ 世界や日本の地理的事象に関心を持ち，それらに対して積極的・意欲的に追求しようとする。	・ 世界全体，日本全体，国内の地域という異なる地域スケールで，さまざまな地理的事象について比較・考察ができる。	・ 世界や日本の地域的特色を理解するために，地図や統計，グラフなどから地理的事象の特徴を読み取る能力を習得する。	・ 「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の五つの視点から，世界や日本の諸地域における地理的事象の特色を理解することができる。。

(2) 歴史的分野 ……第1学年, 第2学年

第1章 歴史の流れと地域の歴史

(ア) 内容

- ・ 身近な生活の中から歴史的事象を発見させ、歴史とは何か、何を学ぶのかについて理解させ、歴史を学ぶ意欲を高める。
- ・ 小学校での学習の成果をもとに、自分で興味あるテーマを設定し、調べ、発表させる。
- ・ 自分で設定したテーマの中で時代区分を試みながら、時代の移り変わりに気づかせる。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
おもしろ歴史発見 身近な歴史を調べてみよう 1年9月 (8)	わが国の歴史について関心を高めようとしている。 身近な地域の歴史について関心を高めようとしている。	時代変化に気づくような主題設定をしようとしている。 身近な地域の歴史と我が国の歴史を関連づけて考察している。	必要な情報を収集し、活用する方法を身につけている。 必要な情報を収集し、活用する方法を身につけている。	日本の歴史の変化を理解、その知識を身につけている。 地域の歴史から歴史の学び方を身につけている。

第2章 古代国家と東アジア

(ア) 内容

- ・ 日本列島での人々の生活が始まり、やがて国家が形成されて天皇・貴族の政治が展開していったあらしを、東アジアとのかかわりを踏まえて理解する。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
人類の登場から文明の発生へ 東アジアの中の倭 天皇・貴族が中心となった政治と文化 1年9月 10月 (12)	わが国の東アジア地域との交流の歴史を知り、特色と、市町村規の歴史を知り、自国や他国の文化遺産を尊重しようとしている。 古代文明の発生と自然条件とのかかわりに関心を持っている。	古代文明の生活技術の発達や文字の使用に着目している。 稲作の伝来が人々に与えた影響について考えようとしている。 東アジアと古代の日本社会との結びつきについて考えている。 大陸から移住してきた人々がわが国の社会に果たした役割について考えている。	さまざまな資料から律令国家の形成以後の天皇・貴族による政治の推移とその特色について調べている。 中国とわが国の国家のしくみの関連性を考えている。 法隆寺や東大寺正倉院に残る文化遺産、仮名文字の成立を現すさまざまな資料から文化の特色をつかんでいる。	古代の日本の歴史の中で次の内容の基本的事項を理解しその知識を身につけている。 ・ 人類の出現 ・ 古代文明の発生とその特色 ・ 日本人々の狩猟採集生活 ・ 国家が統一されていく過程で巨大古墳が作られたこと ・ 大和地方を中心に国家が統一された過程 ・ 大陸の制度を取り入れた国家のしくみを整える過程 ・ 天皇・貴族の政治 ・ 聖徳太子の政治 ・ 大化の改新 ・ 律令制の確立 ・ 摂関政治 ・ 大陸の文化と日本的な文化

第3章 武家政治と東アジア

(ア) 内容

- ・ 東アジアとのかかわりに留意しながら、中世における武家政権の展開と社会、文化の変化という二つの観点から時代を理解し、その特色を身につける。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
武士の世のはじまり 海に開かれた時代 いまにつながる生活・文化 1年11月 (9)	身近な地域にある鎌倉時代や室町時代の文化遺産を調べ、社会と積極的にかかわろうとしている。	武家政治の特色と律令政治の特色とを比較、検討し、違いに疑問をもっている。 元寇が起きた原因などを世界の動きの中で整理し、その背景を考えている。	さまざまな資料から民衆の自治意識の向上を的確にまとめたり発表している。 新たな文化の特色を前の時代文化と比較し、整理している。 現代に息づいている文化の事例をまとめ、わかりやすく発表している。	中世の日本の次の基本的事項を理解し、その知識を身につけている。 ・武家政治の特色 ・南北朝の争乱と室町幕府の特色 ・元寇、日明貿易と東アジアとの密接なかわりとその影響 ・農業や手工業の著しい発達と商品流通の活発化 ・畿内を中心とする都市や農村の自治的な組織の出現

第4章 武家政治の発展と世界の動き

(ア) 内容

- ・ 武家を治世者として、身分制度を基盤とする社会が成立し展開したという観点から、我が国における近世社会の成立とその変化をとらえる。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
戦乱から天下統一へ 幕府の体制と東アジア 天下泰平の世の中 かわる社会と諸対策 1年12月 1月 (20)	日本の文化や異なる文化への関心を高め尊重しようとしている。 歴史上の人物や人々の生活を学ぶ中で、自らの生き方を見つめ、自分らしい生き方を創ろうとしている。 江戸幕府の政治のしくみ 対外関係、身分制度に関心をもち、それらを通して意欲的に課題を設定し、追究しようとしている。 江戸時代に力強く生きた民衆の姿を学ぶ中で自らの生き方を見つめようとしている。 社会の変動や欧米諸国の接近による幕府政治の改革と行き詰まりに関心をもち、その時代に生きた人々の気持ちになって学習活動を行うおうとしている。	東南アジアの国々や朝鮮の立場に立って対外関係を多面的・多角的に考察している。 江戸幕府が長く続いた理由を資料を活用して考えている 鎖国政策の背景を調べるための課題を考えて設定している。 室町時代、江戸時代それぞれの農民の生活を資料を活用して比較している。 代表的な事例を取り上げ、産業、交通、町人文化の特色を多面的・多角的に考察している。 身近な地域で起きた百姓一揆の原因を資料を通じて考えている。	新航路の開拓の流れをまとめ、図示している。 ヨーロッパ文化と現在の日本の生活のかかわりについて調べ、分かりやすく発表している。 信長や秀吉の全国統一までの流れを年表に工夫してまとめる、具体的な政策を整理している。 江戸幕府が長く続いた理由を考えるために適切な資料を選択している。 鎖国政策の背景を資料を使って調べ、的確に図示している。 室町時代の農民の生活を比較検討できる資料を収集している。 身近な地域で、江戸時代から続いている年中行事や江戸時代に発達した街道があるか調べ、創意工夫してまとめようとしている。 身近な地域で起きた百姓一揆に係る資料を収集しようとしている。	近世日本の歴史の中で、次の基本的事項を理解し、その知識を身につけることができる。 ・ヨーロッパ人の来航の影響 ・信長や秀吉が行った政策 ・秀吉の対外関係 ・武将、豪商などの生活文化の特色 ・江戸幕府の成立と大名統制 ・鎖国政策 ・身分制度の確立 ・農民の生活と農村の役割 ・産業、交通、町人文化の特色 ・社会の変動や欧米諸国の接近による幕府政治の改革と行き詰まり ・新しい学問と思想の動き

第5章 近代日本の歩みと国際社会

(ア) 内容

- ・ 19世紀後半の開国と明治維新以降の我が国の近代化の歴史について、世界の動きとのかかわりの中でとらえる。その際、この時代の我が国の歴史が欧米諸国のアジアへの進出など複雑な国際情勢の中で、諸外国との親密なかわりを持ちながら進展してきたことに気づく。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
-----	-----------------	-----------	------------	-----------------

欧米諸国の衝撃と日本 新しい価値観のもとで 国会開設の歩み アジアの日本から世界の日本へ 2年4月 5月 (19)	新政府の諸改革から当時の人々が欧米諸国の新しい方法や考え方に興味を持ち、進んでそれらを取り入れながら問題解決に取り組もうとした姿勢に関心を持っている。 国際的地位の向上を目指して、当時の人々が工夫しながら主体的に解決に取り組もうとした姿勢に関心を持っている。	鎖国から開国への転換の中で、当時の人々が国際化にかかわる課題に取り組もうとした姿勢について考えている。 複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力について考えている。 当時のアジアで唯一の立憲制の国家が成立し、議会政治が始まったことの意義について考えている。 欧米諸国のアジア進出を背景に、開国とその影響について考えている。	さまざまな資料から近代産業が飛躍的に発展した理由についてまとめている。 さまざまな資料から大都市を中心に文化の大衆化が進んだ背景についてまとめている。 さまざまな資料から日清戦争前後の産業の発展の様子を発表している。	明治時代の日本と世界の歴史の中で次の内容の基本的事項を理解し、その知識を身につけている。 ・欧米諸国の市民革命や産業革命 ・自由民権運動 ・大日本帝国憲法 ・日清・日露戦争 ・条約改正までの経緯 ・廃藩置県、学制、税制改革 ・身分制度の廃止 ・領土の確定など新政府の諸改革 ・人々の生活の変化 ・近代産業と国民生活の変化 ・学問、教育、科学技術、芸術等の発展
---	--	--	--	--

第6章 二つの世界大戦と日本

(ア) 内容

- ・ 二つの世界大戦をはさんで展開する我が国の歩みを、世界の動きとの関連に着目し、多面的、多角的に理解する。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
世界情勢と大正デモクラシー 日本がアジアで行った戦争 2年6月 7月 (18)	第一次世界大戦や国際連盟の設立から、国際問題の本質について積極的に考えこの時期の国民の政治的自覚の高まりに関心をもっている。 世界恐慌から第二次世界大戦までの学習の中で、日本や世界の問題に関心をもつとともに国際化にかかわる課題に意欲的に取り組もうとしている。	世界の動きを背景に日本の歴史を大きくとらえ、第二次世界大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解し、国際協調と国際平和の課題に取り組もうとしている。	第一次・第二次世界大戦をはさむわが国の動きについて自分なりに調査し、まとめ、発表できる	二つの世界大戦について次の基本的事項を理解し、その知識を身につけている。 ・第一次世界大戦前後の国際情勢のあらましと民族運動の高まり ・国際平和への努力 ・わが国の国民の政治的自覚の高まり ・昭和初期から第二次世界大戦終結までのわが国の政治 ・外交の動き ・第二次世界大戦への過程と人類全体に及ぼした惨禍

第7章 現代の日本と世界

(ア) 内容

- ・ 戦後の民主主義改革と高度経済成長政策により、国民生活が向上した反面、格差や矛盾、環境破壊などの問題を抱えるようになったことを理解するとともに、人類の福祉と国際平和の実現について考える。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
戦後日本の成長と国際関係 これからこの日本と世界 2年9月 (10)	戦後の混乱と連合国軍による占領という事態の中で苦難を乗り越えながら国家の再建と民主化への改革が進められたことに関心や自分なりの課題をもち、国民としての自覚をもっている。	日本が民主的で平和的な文化国家への道を歩み、やがて独立を回復して国際社会への復帰を果たした過程を世界の動きと関連させてとらえようとしている。 高度経済成長以降、急速に変化する社会の特質や問題点をつかもうとし、より豊かな社会を創り出そうとしている	第二次世界大戦後のわが国の動きに関する文献、映像、統計、見学・調査の結果などのさまざまな資料を収集・選択し、追究した結果をまとめたり、発表している。	戦後の日本と世界の次の基本的事項を理解し、その知識を身につけている。 ・日本国憲法の制定と民主化 ・国際連合の発足と我が国の国際社会への参加 ・高度経済成長と国民生活の向上

(3) 公民的分野 ……第3学年

第1部 現代社会と私たちの生活

(ア) 内容

- ・ 現代社会の成り立ちの過程や国際社会の変容について、個人はどのようにかわりながら生活しているかということをも具体的な社会生活と関連させながら、現代社会の特色を理解する。さらに、公民的分野の学習の導入部として位置づけ、現代社会のさまざまな事象に対する興味・関心を高め、以後の政治や経済学習の観点となる個人と社会のかかわりについての見方や考え方の基礎を身につける。
- ・ 個人が家族の一員として、また、地域の一員として、他の人々と共に生活を営んでいるということをも自覚し、個人が社会とどのようにかわりながら生活しているのかを具体的に考察することを通して、個人と社会とのかかわりについての見方や考え方の基礎を身につける。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的な事象への関心・意欲 ・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的な事象についての知識 ・理解
現代社会の歩みと私たちの生活 4月(10)	・ 高度経済成長後のさまざまな社会的な事象について興味・関心を高めている。	・ 現代社会の特色を多面的・多角的に考察している。	・ 高度経済成長後の社会に関するさまざまな資料を収集し、適切に活用している。	・ 高度経済成長後の社会の発展のあらましと国際化の進展について理解することができる。
個人と社会生活 5月(6)	・ 人間が本来社会的存在であることに着目して、個人と社会のかかわりについて関心をもつ。	・ 家族や地域社会などの機能から、個人と社会とのかかわりを考えることができる。	・ 日常の具体的な事例で考え、発表することができる。	・ 個人の尊厳と両性の本質的平等と、社会集団の特性について理解できる。

第2部 私たちの暮らしと経済

(ア) 内容

- ・ 価格の動きに着目し、市場経済の基本的な考え方や現代の生産のしくみのあらましや金融の働きなど、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連づけて考察する。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的な事象への関心・意欲 ・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的な事象についての知識 ・理解
私たちの生活と経済	・ 個人や社会の経済活動について関心を高め、経済について意欲的に追求しようとしている。	・ 市場経済での価格の決めり方を理解し、経済活動のあり方について生産者・消費者の立場から公正に判断できる。	・ 経済活動に関するさまざまな資料を収集し、適切に活用している。	・ 市場経済の基本的な考え方や価格の種類・決めり方を理解している。
消費者として経済を考えよう	・ 個人の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追求することができる。	・ 個人の経済活動のあり方について、さまざまな立場から公正に判断することができる。	・ 個人の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用することができる。	・ 経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方の知識を身につけている。
企業を通して経済を考えよう	・ 企業の生産活動に対して関心をもち、経済活動に関する諸問題を意欲的に追求しようとしている。	・ 企業の経済活動の社会的影響と、公共の利益に配慮する社会的責任があることについて多面的に考察している。	・ 企業に関する資料を収集し、そのなかから自分の企業づくりにかかわる資料を選択して活用することができる。	・ 生産のしくみをはじめ、市場経済の基本的な考え方や雇用と労働の関係を理解し、その知識を身につけている。
納税者として国の経済を考えよう 5月-7月 (18)	・ 国の経済活動に対する関心を高め、意欲的に追求している。	・ 国の果たす経済的な役割について、多角的・多面的に考察することができる。	・ 国の経済活動に関する資料を収集し、適切に選択して活用することができる。	・ 租税の意義と役割など、国の経済活動の意義についての知識を身につけている。

第3部 私たちの民主政治

(ア) 内容

- ・ 人間の尊重についての考え方を基本的人権を中心に深めるとともに、日本国憲法の基本原則について理解する。その際、法の意義に着目し、社会生活を営む上で法に基づく政治が大切であること、そして、わが国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることを理解する。
- ・ 住民自治を基本とした地方自治の基本的な考え方、及び国会を中心とするわが国のしくみのあらましを理解し、議会制民主主義の意義について考える。また、多数決の原理とその運用の在り方の理解を深める。さらに、公正な裁判の保障について理解する。特に、地方自治の発展に寄与しようとする意識を高めるとともに、民主政治を推進するために、公正な世論の形成と国民の政治参加が大切であることや選挙の意義について考える。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲 ・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識 ・理解
日本国憲法について考えよう	・ 学習活動を通して憲法について関心をもち、より民主的な社会にしていくためにはどうしていけばよいか考えようとする。	・ 基本的人権や平和についての問題を、いろいろな意見を理解した上で民主的な視点に立って理解できる。	・ さまざまな資料を通して憲法についての理解や考えを深めることができる。	・ 人間尊重の考え方や法に基づく政治の大切さ、憲法の基本原則と、憲法の意義と役割を理解することができる。
人権について考えよう	・ 人権を守るための責任と義務を理解し、基本的人権が守られる社会にするにはどうしたらよいか考え続けようとしている。			・ 具体的な事例を通し、いじめや差別も人権侵害にかかわる問題であることを理解している。
住民として地方の政治を考えよう	・ 民主政治の基本的な考え方と、その考え方にに基づく地方公共団体の政治のしくみや財政について意欲的に追求しようとしている。	・ 人権を尊重し、住民の意思と権利を保障する民主的な政治のあり方について、住民の立場から公正に判断している。	・ 地方の政治に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用することができる。	・ 住民参加による住民自治が基本となる地方自治は、首長と議会の2つの機関を中心に行われていることが理解できる。
国民として国の政治を考えよう 7・12月 (30)	・ 身近な事例を題材として、国会・内閣・裁判所のしくみや役割について関心をもち、将来の主権者として政治参加への意欲をもつことができる。	・ 選挙ゲームや模擬裁判など作業的・体験的な学習を通して、国会・内閣・裁判所の役割や意義について考えることができる。	・ 新聞記事やTVニュースなどから、国会・内閣・裁判所の活動に関する情報を分類整理することを通して、国民の政治参加のあり方について意見交換ができる。	・ 主権者の立場から民主主義の意義について考え、国会・内閣・裁判所のしくみや役割について、具体的な事例を通して理解することができる。

第4部 地球市民として生きる

(ア) 内容

- 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国家間相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力が大切であることを認識し、我が国の平和主義についての理解を深め、世界平和を確立するための熱意と協力の態度を身につける。また、よりよい社会を築いていくための課題を考える。

(イ) 評価規準の具体例

内 容	社会的事象への関心・意欲 ・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識 ・理解
世界平和の実現をめざして	・世界平和の実現と人類の福祉の増大にかかわる国際社会の諸問題に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。	・国際社会の諸問題から、世界平和に関するさまざまな課題を見だし、その解決に向けて多面的・多角的に考察することができる。	・世界平和に関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し、適切に選択し活用することができる。	・国際社会において、主権国家の意義と国際社会で守るべきルール、国家間の相互の協力や各国民の相互理解と協力が、世界平和の実現と人類の福祉にとって重要であることを理解している。
私たちの地球を見つめて	・地球環境、資源・エネルギー問題についての課題を認識し、これらの諸問題について考え続けようとしている。	・人類の将来にわたる発展と自然との調和という観点から、環境や資源・エネルギー問題について多面的・多角的に考察することができる。	・地球環境、資源・エネルギー問題にかかわる課題について考え、それを表現することができる。	・地球環境、資源・エネルギー問題については、省エネルギーなどの重要性に気づき、地球規模での努力や国際協調が大切であると理解している
地球市民として生きる 12月・2月 (16)	・現在及び将来の人類が、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題について、地球市民の一員として考え続けようとしている	・21世紀の共生社会を実現するために、地球市民としてできることについて、多面的・多角的に考察することができる。	・21世紀の共生社会にかかわる課題を考えた過程や結果について、自己の考えを表現することができる。	・世界平和と人類の福祉の増大をめざして、現在及び将来の人類がよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について理解している。